

1 プロジェクト内容

(1) プロジェクト名	循環型再製学校
(2) プロジェクトの成果 (※そのような成果が得られたかについて具体的に記載)	
<p>2023年度プロジェクトでは「コミュニティー活動の活発材としてのコンポスト活動」「ごみ問題への意識向上」を成果として挙げられる。</p> <p>「コミュニティー活動の活発材としてのコンポスト活動」に関しては、2年間のコンポスト活動を通して、ごみに関心がなくても、「地域の人との交流の場として」「子どもの教育の場として」といった、ごみとは違ういろいろな価値を持って参加してくれる人が多くいたことがアンケート、インタビュー、参与観察などから明らかになった。それは、直接ごみに関心がなかった人でも、参加したことでごみに関わるきっかけをつくることができたと言える。そして12月26日に行ったイベントでも新規参加者の4人はごみとは違うところに価値を持って参加していた。また、参加者の半数以上から「1人だけではコンポスト活動ができなくても、その場にコミュニティがあり、そこで共通の目的であるコンポストという1つの目的を通して、共に同じ行動をしている人がいるから続けられている」ということが強調された。だからこそ、住民同士が結束し、コンポストを長期間に渡り続けられているという相互作用が生まれていることが明らかになった。</p> <p>「ごみ問題への意識向上」に関しては、プロジェクト開始初期は、参加者たちはコンポストに関する困難（特に臭いの課題）を経験していた。これに対し、「臭いがきつい」「自分たちの土はきちんとできている？」という発言が挙げられた。参加者たちが直面する問題への直接的な反応であり、コンポスト活動の実践的な課題を示していた。しかし、コンポストに関するイベントと地域との交流が進むにつれて、「遠慮せずもっと地域推進力の役員を頼って欲しい」「人を集めることをもっと僕らが率先してやっていかなければならない」という発言があり、当初のコンポスト活動の参加者という受動的姿勢から積極的な姿勢へと変化している。さらに、「来年度も後輩に引き継いで、続けていってほしい」という発言もあり、活動の持続性に関する意識と次世代への責任感を示している。参加者たちは、この活動が一時的なものでなく、長期的な価値を認め、継続的な関与を志向する者も現れた。</p> <p>そして、「これ（コンポスト活動）楽しいです。もっと多く生ごみを入れたいのですが、バケツって余ってたりしませんか」「ごみをごみとは思わなくなって、また何かの資源になる」という発言や、廃棄物の水分を適切に排除し、土をかき混ぜることで、適度な水分を保持した土を作り出す手法を実践していることから、生ごみを処理することの労力と継続性を伴うプロセスへと進化している。廃棄物を資源として再認識し、自分ごととして環境への貢献に対するといったごみへの意識が変化している者も現れた。</p> <p>このように循環型再製学校のプロジェクトを通してごみ問題へ参加するきっかけや入口は多様であってもごみ問題に関心を持ってもらうことができるという理想的な出口を創出することは可能であることが明らかになった。</p>	
(3) プロジェクト実施内容 (※事業の実施方法、時期、場所、回数、市民への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載)	

年	月	日	活動内容
2023	2	18	コンポスト回収 前年度の先輩からコンポストの引き継ぎ
	3	19	コンポスト回収 6名参加 「旧道泉小学校」の畑の草抜き、必要な備品を確認（軍手、ぬか） 自主回収を行う2名には、後日持っていくことができるよう糠を混ぜた土を用意した
	4	16	「旧道泉小学校」の畑整備、ジャガイモの種の植え付け作業 畠山ゼミのフィールドである大野瀬より苗をいただき、植え付け
		23	コンポスト回収 5名参加 都合により自主回収が2名 匂いや水っぽさなどのコンポストの問題点を把握
	5	21	コンポスト回収 3名参加、旧道泉小学校」の畑整備 ジャガイモの葉にクサギカメムシを発見したため対策を練る
	6	25	コンポスト回収、旧道泉小学校」の畑整備 ジャガイモが直径3cmになっているのを確認、虫が減少していた
	7	23	コンポスト回収 6名参加 ジャガイモ収穫 11名参加（小学生が4名） コンポストがジャガイモの堆肥になっていることを説明し収穫を行った 奥にある畑の開拓についても参加者と話し合いを行った
	8	20	コンポスト回収
	9	3	コンポスト回収 4名参加 参加に今後の活動改善のためインタビュー調査を行った
		21	大根を植えるための「旧道泉小学校」の畑整備
		24	「旧道泉小学校」の畑を耕す、耐病総太り大根の種を30センチ間隔でまく、防虫ネットを張る
		26	大根水やり
		28	大根水やり、ジャガイモ収穫日を道泉交流センターの方と相談
		29	大根水やり、大根に防虫ネットをかける
	10	6	大根水やり
		12	大根水やり、畑の草抜き
		15	「旧道泉小学校」の畑を1つ開拓・畑の草抜き
		17	「旧道泉小学校」の畑整備・大根水やり
		19	大根水やり

		22	大根水やり
		24	大根水やり
		26	大根水やり
		28	大根水やり
		29	コンポスト回収 9名参加、大根水やり コンポストから水が出てしまい、匂いが気になる人が半数以上いた
		31	大根水やり
	11	2	大根水やり、10月29日に頂いた意見を基に、公式LINEにて水が出てしまうことや匂い対策についてメッセージを配信
		4	大根水やり
		6	大根水やり
		9	大根水やり
		12	大根水やり、瀬戸散策
		14	大根水やり、畑の草抜き
		15	大根水やり
		16	役員会議でのイベントチラシ配り
		18	大根水やり
		20	大根水やり、畑の草抜き
		22	大根水やり
		24	大根水やり
		25	大根水やり、畑の草抜き
		26	コンポスト回収、大根収穫・試食イベント 12名参加（新規参加者6名） 前半はコンポストをどのように行っているかの説明と大根掘り、後半は収穫した大根でおでんを作り試食、アンケート、インタビューを実施
	12	17	コンポスト回収 7名参加、大根収穫・試食イベントでの新規参加者獲得により2名が参加

	1	14	コンポスト回収 3名参加、新4年生への引き継ぎ、草抜き
	2	18	コンポスト回収 3名参加

【プロジェクト実施内容】

場所：道泉小学校

配布物：コンポストキットの配布

(コンポスト用バケツ、道泉小学校の花壇の土と糠と炭を混ぜたもの)

スケジュール：上記の通り

広報：チラシ配布によるプロジェクトの周知、LINE公式アカウントにより参加者との連絡、Instagramでの情報発信、「あったかネットどうせん」による情報発信

参加人員：畠山ゼミ→3名

参加者→14名（新規参加者3名）

※市民への周知方法

- 瓦版（あったかネット）にプロジェクト内容の掲載
- 参加者による瀬戸市民へのイベント周知
- イベントでのプロジェクト説明
- 公式LINEでの定期的な活動連絡
- 畠山ゼミ Instagramにて活動を発信

(4) プロジェクトの今後の課題と展望

今後の課題としては、コンポストの新規参加者を増やすこと、継続して参加してくれる人を増やすことが挙げられる。さらに現在のコンポスト参加者の多くは、元々コミュニティ意識の強い住民がメインであった。この現状を踏まえ、今後、「ごみ問題」を解決していくには、ただ啓発していただくだけではなく、まずは関心を持つきっかけをつくる必要がある。そのためには、ごみ問題とは切り離れたベクトルのコンセプトをつくり人々を参加させていくアプローチが必要である。また、ごみ問題や地域の活動に興味のない人を巻き込み多くの人を集めることができるイベントや広告媒体の増加、モチベーションを上げることができる機会を創出していく必要があると考える。

(注) プロジェクトに関する参考資料がある場合は、A4サイズで添付してください。